

豊川海軍工廠の戦争遺跡

平和公園とその周辺一帯は、昭和24(1949)年に名古屋大学空電研究所が設置され、空襲の被害を免れた施設を研究室・実験室・事務室等に再利用してきました。その後、研究所における旧工場建物の利用は昭和50年代に終わりましたが、それらの建物は取り壊さずに残されたため、全国的にも数少ない軍需工場の戦争遺跡として知られるようになりました。このエリアには、工場建物以外にも防空壕跡や500ポンド爆弾の着弾穴なども残っています。

